

# 「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



## 「その味知れる人」に！

**身をけずり  
人に尽くさん すりこぎの  
その味知れる人ぞ尊し！**



すりこぎとは、すり鉢で物をすりつぶす木の棒のこと。

この言葉は、「すりこぎのように自分の身を削りながら人のために尽くしなさい。そして、そんな人の素晴らしさがわかる人になりなさい」「人のために一生懸命に努力している人の苦勞を感じ取り、そのことへの感謝の気持ちを持つ。そういう感謝の気持ちを持って日々生きている人は尊い」という、鎌倉時代の僧・道元の教えをあらわしたものです。実はこの歌はずいぶん前から一中の校長室に飾られていて、校長先生も昔ある人から聴いて知りました。その方は教え子のお父さんで、ある日校長室でこの歌に出逢い、自分にも人のためにやれることがあればと PTA 会長の役を引き受け、その後も様々な立場に立たれて、まさに人のために尽くした方「その味知れる人」でした。2017 年台風で被災し、なかなかたがれきの撤去が学校まで手が回らず一中にも山積みに放置されていたときも、会社の人とトラックで休日に片づけをしてくれたのです。ちょうどみんなが小学校時代に運動会をしていた日でした。この方の話を聴いてから十数年後、一中校長室でこの歌に再び出逢いました。「日本一熱く絆強き学校」を実現するには、いつかこの歌の意味を全校生徒で理解を深め、一中の大切な価値観としていくことが欠かせないと考えていました。「一中人権宣言」を基盤にした自治力による「日本一熱く絆強き学校」への道を歩み始めた今こそ、そのとき。まずは冬休みの新執行部のリーダー研修でこの話をしました。一生懸命に人のために尽くそうとしていると、たくさん苦勞や壁にぶつかります。大変で疲れてくると、「こんなに一生懸命しているのに、なんで…」「何で自分ばかり大変な目に…」と、つい思ってしまうたりもします。でも、実は余裕がなくなって気づいていないだけで、君の頑張る姿や思いに気づき支えてくれていた人がいるものです。そう、身を削り、誰かのために尽くせる人、そんな人をさりげなく支えられる人、そしてそのことの素晴らしさがわかる人、…そんな一人一人になろうとできる集団、そんな感性や価値観であふれた仲間になっていくことが「日本一熱く絆強き学校」への道！そこには熱い心、仲間を思うあったかい心、揺るがない絆があふれているはず。さあ、みんな仲間のために動き、支え合い、共にその素晴らしさがわかる人・「その味知れる人」に！  
「Harmony」=生徒一人一人が輝き、重なり合い、一音も欠かさず協力し合える学校にしたい！  
誰一人として欠かさず、一人一人に強くこだわることのできる一中を創りたい！先週確かめ合ったこの決意。そのために自分がやっていきたいことは何か？わが班ができることとは？わが学級では今日から何をどうしていくか？

**小さな優しさ、1つの「気づきと行動」の積み重ねが明日の大きな一歩につながる！  
身をけずり 人に尽くさん すりこぎの その味知れる人ぞ尊し！**

